

大学婦人協会東京支部

1997.7
第22号

- ・男女共同参画社会に向けて
- ・紙上討論「女性が働き続けるために」

男女共同参画社会に向けて

東京支部長 比留間淑乃



去る四月十九日に開催された東京支部総会及びベアテ・シロタ・ゴードン氏による記念講演では、会員

皆様のおかげで満席の中無事終了いたしました。新たな年度に向けて心を引き締めて活動を開始しております。本年度本部セミナーのテーマは、「女性と職業—その障碍と支援について」であります。女性が働き続けるためには幾多の問題が山積しております。それらをクリアしない限り、女性が働き続ける事はまだまだ現状では困難であると思います。折しも政府の男女共同参画推進本部より「男女共同参画二〇〇〇年プラン—男女共同参画社会の形成の促進に関する平成十二年（西暦二〇〇〇年）度までの国内行動計画」が出

されております。

個人の尊重と男女平等を基本的人権として保証した日本国憲法が制定されてから半世紀を経た今、少子化、高齢化、経済、国際、情報化の急速な進展等により大きな変革期を迎えています。男女共同参画社会の実現が、憲法にうたわれた基本的人権の確立となり、現在直面している重要な諸問題の対応に欠くことのできない要件であります。

東京支部ではこれらに関連するテーマで、講演その他を企画いたしておりますので、多数のご参加をお待ち申し上げます。

次に、本部事業の国内奨学金に東京支部より十萬円の寄付をしております件につき、ご説明を付したいと思います。一九九五年度より、支部総会の承認を経て、本部国内奨学金委員会の国内奨学金に指定寄付として十萬円寄付しております。かねて二十一世紀を担う優秀な学徒に奨学金をお出しすることは、意義ある事業の一つと考え、少しでもお役に立てばと毎年度継続いたしております。



東京支部総会報告

書記 百束礼子

一九九七年東京支部総会は、四月十九日（土）例年とおり国立教育会館で開催された。

支部会員数五八六名中、出席者数五十一名、有効委任状二七六通で総会は成立。

比留間支部長の挨拶に続き一九九六年度の事業報告、決算報告、会計監査報告が行われた。引き続き一九九七年度事業計画案・予算案が審議され、予算案の支出項目に「雑費」を追加することが承認された。

委員一名の交替が支部長より紹介され、次いで丸山JAUW会長よりご挨拶を頂いた。事務所の移転が愛知での通常総会で承認されたので、東京支部にも今後いろいろの協力をお願いしたいとのことであった。

記念講演は、日本国憲法施行五十周年にふさわしいベアテ・シロタ・ゴードン氏による「憲法草案作成に携わって」という題で行われた。会員外の参加者も多く会場に入りきれないほどの盛況であった。

1996年度大学婦人協会東京支部決算報告

1996/4/1～1997/3/31

1997年度予算

1997/4/1～1998/3/31

収入の部

(単位:円)

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 額	備 考	予算額	備 考
I 会 費 収 入	1,500,000	1,609,000	109,000	538口 ¥3000×533 ¥2000×5	1,500,000	500口
II 基本財産利息収入	65,000	32,413	-32,587		30,000	
III 運用財産利息収入	2,000	1,315	-685		1,000	
IV 寄 付 収 入	400,000	383,900	-16,100	バザー、寄付	350,000	バザー、寄付
V 雑 収 入	30,000	21,810	-8,190	¥400×24 入会還付金、賛助会員還付金、 他	35,000	入会還付金、賛助会員還付金 他
当期収入合計	1,997,000	2,048,438	51,438		1,916,000	
前期繰越金	935,196	935,196	0		929,620	
収 入 合 計	2,932,196	2,983,634	51,438		2,845,620	

支出の部

科 目	予算額	決算額	差 額	備 考	予算額	備 考
I 管 理 費	1,244,530	1,165,594	-78,936		1,080,000	
(1) 備 品 費	20,000	1,546	-18,454	印刷	20,000	
(2) 消 耗 品 費	140,000	92,581	-47,419	コピー代、封筒	120,000	コピー代、封筒 他
(3) 印刷製本費	50,000	45,624	-4,376	支部お知らせ 他	50,000	支部お知らせ 他
(4) 通 信 費	400,000	394,533	-5,467		400,000	支部お知らせ ともしび 本部会報 他
(5) 交 通 費	70,000	58,800	-11,200		70,000	
(6) 事 務 所 費	100,000	100,000	0	本部へ分担金	100,000	本部へ分担金
(7) 事 務 手 当	460,000	467,980	7,980	事務員給料一部負担 他	320,000	事務員給料一部負担 他
(8) 退職記念品費	0	4,530	0	予備費より充当	0	(予備費より充当)
	+4,530					
II 運 営 費	145,000	139,038	-5,962		145,000	
(1) 総 会 費	85,000	85,400	400	会場費 マイク代 菓子代	85,000	会場費 マイク代 菓子代
(2) 委 員 会 費	60,000	53,638	-6,362		60,000	
III 事 業 費	700,000	549,382	-150,618		700,000	
(1) 一 般 事 業 費	600,000	449,382	-150,618	ともしび(2回)、講演会 他	600,000	ともしび(2回)、講演会 他
(2) 国 内 奨 学 金	100,000	100,000	0	国内奨学金指定寄付	100,000	国内奨学金指定寄付
IV 雑費(慶弔費 他)	0	0	0		20,000	
V 予 備 費	20,000	0	-15,470	退職記念品費へ充当	20,000	退職記念品費へ充当
	-4,530					
VI 基 本 金 積 立	400,000	200,000	-200,000	貸付信託	200,000	貸付信託
当期支出合計	2,505,000	2,054,014	-450,986		2,165,000	
次期繰越金	427,196	929,620	502,424		680,620	
支 出 合 計	2,932,196	2,983,634	51,438		2,845,620	

1997年3月31日現在

基本金財政状況:貸付信託 ¥3,584,601……三井信託銀行新宿西口支店

運用財政状況:繰越金 ¥929,620 普通預金 ¥870,575……三井信託銀行新宿西口支店

現 金 ¥59,045

会 計 溝 澤 ひろ子

山村 敬子

厳正に監査いたしました結果、正確に記載されており、間違いのないことを証明いたします。

1997年4月7日

会計監査 峯川 正子

松沢 美仁子

④ 決算の一般事業費の差額が-150,618円となっているのは、国会見学やビデオ鑑賞等が無料であったことと、音楽鑑賞会が当日出演者の都合で中止になり、謝礼が不要になったことなどによる。

記念講演

「憲法草案作成に携わって」

講師

ベアテ・シロタ・ゴードン氏

憲法施行五十周年の年、日本国憲法草案作成に携わった元GHQ民政局員、ベアテ・シロタ・ゴードン氏の講演は、意義深いものであった。



一九四六年二月四日午前十時、憲法草案制定会議メンバー二十五名の発表、作成期間はわずか九日、氏は七部門から成る小委員会の一つ人権委員会に配属される。男女平等の実現と日本女性の権利獲得のために各国憲法の調査・比較・草案執筆。配偶者の選択、妻・児童・妊婦の権利、社会保障などを盛り込んだ具体的条項案が次々と削られ落胆する。戦前の日本女性の無権利状態を見ていた氏は、涙とともに第二四条に基本権を結実させた。三月四日から始まった翻訳会議にも通訳として出席、男女平等の草案に反対した日本政府代

表を納得させる。その経緯は、著書「1945年のクリスマス」(柏書房)に詳しい。現在日本女性の社会的活動の場は広がっているが、女性の権利が完全に実現されるまで日々戦い、その進歩を世界に伝える義務がある

と人権条項作成に携わった氏の言葉は重い。

更に、人種と信条のための争いが厳しくなってきた今、戦争放棄を掲げる第九条を世界に示し、平和に貢献してほしいと強調された。

有名なピアニスト、レオ・シロタ氏を父に持つ氏は、ジャパン・ソサエティとアジア・ソサエティのディレクターとして、日本・米国・アジアの文化の交流にも尽力された。

少女時代の思い出、ご夫君との出会い、戦中戦後困難な生活を強いられ、戦後親への思い、仕事と家庭の両立の悩み、子供を育てながら働く娘を気遣う母、留学生を世話する優しさに拍手が沸いた。そして老人福祉までは考えが及ばなかったと苦笑する。氏の率直さ、みずみずしさに会場八十三名・会員外五十名の聴衆が、限りなく魅了された九十分だった。

(川田ひろ)

(海老原典子)

見学

東京港見学

五月十三日、薄曇りながら、まずの天候に恵まれて、東京支部会員を中心に総勢二十九名 竹芝駅に九時半に集合した。

十時、新東京丸に乗船、船内の一階は四十名ほどが楽にすわれる大型ソファがあつて快適、港湾局の柴田幸夫氏を案内役に出発した。

東京湾の中の一つの港に過ぎない東京港であるが、船から見ると意外に広い。ふ頭には倉庫群が建ち並びコンテナ船が荷揚げをしている。近年、食品の輸入量が増加、コンテナ船の大型化に対応するためのふ頭の浚渫工事が行われている。それが完成すれば、現在コンテナ一個の荷揚げに要する二分が一分に短縮される。港は一大物流拠点である。

また、東京湾の海の下では現在海底トンネルが掘られている。そのための構造物が見える。中央防波堤付近の人工島では、廃棄物と土砂とのサンドイッチ工法による埋め立てが行われている。廃棄物運搬船も往き来している。

一方、フェリーターミナルには、北海道、九州、四国向けのフェリー

の白い船体が停泊している。豪華客船も見える。

上を見上げれば、巨大なレインボーブリッジや都市モノレール「ゆりかもめ」が通り、東京のウォーク・フロントは、さながら未来都市の様相を呈して、ダイナミックに変化しつつある。一時間余りの見学で、港の持つさまざまな施設を見学し、それはとりもなおさず、人間のさまざまな営みを支えるものであることを実感した。

(山崎邦子)



投稿紙上討論②

「女性が働き続けるために」

○村田鈴子

総務庁統計局の「労働調査」によれば、六十五歳以上の十五、五パーセントの女性が働いている。その一員である私も、男女共同参画社会実現のため、七十歳までは元気でがんばりたい。

女子大学を卒業して、共学大学で若い学生達に教えることは同時に学ぶことでもある。健康を第一に考えて無理しないが、適度に運動し、頭を使い、読書もして外界の空気にふれることは、例えばストレスを生じて、健康のためによく、バランスをくずさない。

「働く女性が性により差別されることなく、かつ、母性を尊重しながらその能力を十分に発揮できるよう関係法案を今国会に提出する」と一四〇回国会における橋本首相の施政方針演説の文言にあったが、法が作られても十分でないことは、雇用機会均等法が示している。新規求人数の増加や新卒女子の就職率に下げ止まりの傾向がみられ、明るい材料もある。女性が働き続けるためには、与えられた仕事を大切にして励むこと

である。

○T・H

今もその時の戸惑いと苦悩は脳裏に刻まれている。B大学専任助教授に任命されて二年目に出産した。出産予定の一年前から、生後一年間出産した病院へ預ける予約をようやく取り付け、父母兄妹等東京在住でなく、同期生の出産期より十年遅いために共同育児体制も不可。出産と同時に預けた。三日後の日曜日に面会に行くと、殺風景な病室のベッドに他の乳児達と居た。規則正しくと言えはそうであろうが、授乳時間おむつ換え時間等、画一的に思われ、帰りの階段の踊り場でとめどなく涙が出た。そのまま子供を持ち帰り、翌日からが大変であった。

とりあえず知合いの方に見ていただき、大学に行って学長に現状を説明し辞任を希望した。学長は辞めるのは簡単だが再就職は困難だから、専任が無理なら非常勤で、困った時は学校に連れてきてと、温情ある言葉をいただいた。家政婦が時間までに来ない時は、職員の方同僚の方々に大変お世話になった。綱渡りのようにしてきたが、幸い周囲に恵まれた。また、どうにか細かながら続けられたのは、夫の多大の協力のおかげでもあった。

げでもあった。

男女同権であつても同質ではない。

女性が出産育児が避けられない。本来家政婦ではなく、安心して預けられる所がきちんとあることが急務であると痛感する。

○旦節子

1 女性本人が経済的・精神的自立を求める気持ちをもつためには高校や大学教育の場で女性教員や働く女性に多くふれる機会が欲しいのです。

扶養家族の税制も問題でそのうちに夫と妻の関係が対等でなくなることを若い時は経験していいので安易に職をやめてしまします。

2 乳児の四〜六カ月くらいまでは自宅で育て、それ以降は家庭育児へのこだわりをもたないように周囲が励ましたいものです。0歳児にとつて保育園で世界が広がる経験はプラスです。親は産休・育休後の希望があれば育児にも積極的な気持ちで取り組みます。0歳児保育の受け入れが必要ですよ。

3 M字型ライフサイクルの職業は結局パートの低賃金労働力として利用される問題があるので、短縮労働時間やフレックス制を男女共とれるように企業内の若者たちが一致して働きかけてほしいものです。

4 男性が育児休暇をとる習慣をつ

くれば、上司の子育てに対する理解も正しくなるでしょう。男の子、女の子の育て方にも問題がありました。

5 退職した育児専門職の人が時間制のベビーシッターとして0歳児の家庭で保育にあたる制度を公的支援することによって、母親を育児から解放し職場復帰のための心身準備の時間をも与えてほしいのです。

○E・S

時代に逆行するような意見で恐縮です。しかも、働き続けてもらいために、虫のいい話です。

私は二十五年間自宅で中高生向けの国語塾を開いてきました。

中一の最初の古文教材に宇治拾遺物語の「鬼二瘤取ラル事」を使います。教える前に、生徒たちに自分の知っている「瘤取りじいさん」を書かせます。不思議なことに正確に書ける子と、全く知らない子とがあります。また、中二で古典短歌と俳句を暗記させます。その時、花の名前や自然の移ろいに関して、詳しい子と全く興味を持たない子があります。中には「薩摩の守って、無賃乗車のことだよ、だって忠度(タゲノリ)だもん」とおじいちゃんの受け売りに熱心な子もいます。大ざっぱ

に見ますと、その成長過程に祖父母が関わっている子は、概して語彙も豊かだし、伝統文化も伝わっているように思われます。若い世代は、いつの時代も新しい文化に偏りがちです。それだけに、伝統文化は伝える側の努力が必要だと思います。歌舞伎狂のおばあちゃん、出番ですよ。

受験に失敗した時飛び込むのも、なぜかおじいさんおばあさんの胸です。子育て真っ最中の親の世代は、まだ人生の発展途上人。「受験の失敗なんて、かすり傷みたいなものよ」と笑って言える人が、子供の周囲に必要だと思います。

社会的支援ももちろん必要ですが、娘やお嫁さんの困っている時、孫の世話をし彼女たちにもしつかり働いてもらいましょう。年金の心配のない世の中のためにね。もちろん文化の伝授と恩にきせて。

○藤田典子

私は、大学卒業後、五年間フルタイムで働きましたが、残念ながら二人目の子供を出産する前に仕事を辞めました。悩み抜いた末に結論を出した理由は、夫の転勤の可能性と、子供を保育所に預けることに對する周りの反対と、そして家事と育児をしながらではどうしても十分な仕事

ができないと考えたためでした。しかし続けたかったという思いは強く残りました。ラッキーにも十年後にパートタイムの形で仕事に復帰でき、仕事を離れていた間に子育てを通して考えたこと、感じたことが無駄でなかったと思っています。

しかし、仕事に復帰できたのはとてもラッキーなこと、実際にはそのチャンスがない場合の方が多い、ましてやデイズジョン・メイキングに参画することは難しい。随分と制度の整った現在でも、それなりの仕事をするには、たとえば結婚をしないと、子供の数を少なくするなど、何かを選択せざるを得ないのです。

どうしてだろうと私はずっと思いつけています。何故もつと社会全体として、仕事も家事も育児も分担し合えないのだろうか？

一人一人の人間が、男女を問わず、より生き生きするにはどうすればいいのだろうと考える合いたいものだと思えます。頑張りすぎないで、自分を大切に、お互いを大切にできればよいのと思っています。心豊かな社会が、女性が働き続けるための必要条件だというのが私の考えです。

○匿名

「元気なママたち、仕事と乳幼児」

就職して十年、結婚五年目に女兒を出産し退職した。彼女は、朝七時前に夫より先に出勤、夕方七時半帰宅。子供がいなかったこと、夫のフレックス・タイム制に助けられ、制約なく仕事に専念、共働きをエンジョイしていました。五年目妊娠がわかったとき、迷うことなく子育てを選択、仕事を後輩に譲りました。十年思う存分勤めたことは満足だったようです。これからの十年は子育てに専念するといっています。

もう一人は共働き六年、子供二人の核家族です。結婚一年目、夫の転勤と妊娠が重なり、一年を別居もう一年を育児休業でのりきり復職しました。職場から四十分以内に保育園をさがし、午前七時半～午後六時の保育を確保。園の近くに思い切つてマンションを購入、職住接近を整えました。でも、朝夕は大変、初めのうちは電車の中を走りだしたい気持ちだったといっています。夕食をしながらのオシャレ、背中を流し合いながらのオフロ、床に入ってからのおハナシタイム、短い親子の時間を大切に。週休二日は思い切りフレックス。保育園、職場の制度の充実と理解、夫の協力、家族の健康、時にはSOSを発しながら勤め続けてい

ます。

出産育児の仕事への影響は大きく、職場での仕事の評価は厳しいものです。「そんなに無理しなくても……」といった社会の目も。でも勤め続けたいと彼女は願っています。今しばらく子育てと並行しようと、この二度目の育児休業をとりました。復帰時の保育園の確保、仕事へのスムーズなすべり出し、不安はありますが、仕事ができる日を楽しみにしている彼女です。エネルギーあふれるこの一家にエールを送りながら、乳幼児を持つて働く大変さを痛感しています。

・信頼のおける保育園の充実(数、設備、保母さん)

・意欲ある女性に出産育児のいきいき、仕事に理解を！
願うものです。

二人の選択は違いますが、これからそれぞれに合った人生を自分達で選んでいくことでしょう。時折発するSOSに答えながら応援したいと思っています。

多くのご投稿ありがとうございます。投稿順にそのまま掲載しました。次号の原稿募集要領は、八ページをご覧ください。

第40回通常総会報告

副支部長 藤谷文子

例年より一週間早い桜開花宣言にタイミングがぴったりと合い、桜満開のもと名古屋に於て第四十回通常総会が開催された。



総会に先立ち、四月一日午後よりアイリス愛知に於て、支部長会、評議員会が開かれ、続いて、続いて夕刻六時より懇親会の幕はきつて

落とされた。野坂恵子氏の二十五弦箏の重厚な演奏は、聞いている者達に深い感動を与えるのに充分な役割を果たしたと言える。シンガポール、アメリカからのゲストを交えての全国各支部の会員同志の語らいの輪は、一年振りという懐かしさも加え盛り上がりを見せ、二時間は瞬く間に過ぎてしまった。

四月二日、総会出席者二一〇名、出席支部二十四支部で開会。会長に

よる開会の辞の後、逝去会員の冥福を祈り全員で黙禱。丸山会長の司会で報告・審議、懇談へと議事は進行。

報告事項においては委員会、会計に多数質問がなされ、熱心で活発な意見交換があった。

審議事項では今井副会長から若手会員育成規定の説明があり、これが少しでも若手会員増につながれば嬉しいのだが。次に会長から国際会議剰余金の使途についての説明があり（一月の臨時総会につづくもの）満場一致で出来るだけ早く新事務所移転が出来れば望ましいという方向に落ち着いた。

懇談事項では山中副会長より今年度国庫補助事業（JAUWセミナー）についての呼びかけがあり、テーマは「女性と職業―その障碍と支援について」に決定とのこと。次に一九九八年度の国際会議がオーストリアのグラーツで八月十九日から二十六日まで開催とのこと、横浜大会がまだ昨日のことのようなのに。

最後に次期総会開催地金沢支部の支部長山村福子様より承諾の挨拶があり総会終了。

なお、総会の準備・運営にあたられた愛知支部の皆様のおかげもあってなしに深く感謝申し上げます。

愛知支部主催

名古屋見学記

桜満開小雨の名古屋を出て瀬戸市愛知県誕生百年記念の陶磁資料館に着く。広い敷地に七棟の施設がある。本館では柴垣勇夫氏に古代から中世猿投灰釉窯以末色絵磁器に到る過程のご説明をいただいた。また、現代の米国と日本の意匠的な作品も展示されていた。

徳川美術館はお城のような広い建物。大名物の灰被天目茶碗、漢作肩衝茶入、三島筒茶碗を筆頭に武具や夫人の奥道具が飾られ、二の丸御殿の一部や茶室、能舞台が復元されている。国宝源氏物語絵巻の室を経て尾張徳川家の婚礼調度と雛まつりの室は絛毛氈でばつと明るく愛らしいお雛様が幾組も飾ってある。雛道具も巧緻を極め格調高い華麗さを堪能した。お昼食は館内の宝善亭で皆様と楽しく美味しく宗春弁当をいただいた。



(芥川妙子)

財務委員会主催

志摩と奈良の旅

四月二日、名古屋城の桜を後に私たちは賢島に向かった。夕方から雨が激しくなると、今世紀最大級というヘール・ポツプすい星も見えない。



翌日、伊勢神宮、室生寺、談山神社と懐かしい神社やお寺を巡ったが、若葉と桜の花の中、はるかにすすむ白木の社、五重の塔の美しさはまた格別で、「女人高野」の名も心にしみた。

三日目も西大寺、秋篠寺、法華寺と趣のある寺々でみ仏に再会する。白毫寺の五色の椿の下、高円山をのぞみ万葉の昔をしのんだ。小雨の中古代歌垣が行われた海石櫛市の椿山に登ったのは大変だったが、バスの中での親しい語らいとともに楽しい思い出となった。

(福田文子)

支部各係からのメッセージ

○会員係

(中山)

1住所、姓名等の変更がある時は、支部長宛に速やかにお知らせください。

2会員を増やすため、友人知人等の勧誘をお願いします。

○講座・見学係

(西尾・待場)

五月十三日に視察船による東京港クルージングを、天候にも恵まれ、満喫しました。七月九日には、弁護士・福島瑞穂氏の講演会を東京ウイメンズプラザで行う予定です。九月十一日には、瀧波ガラス工場を見学します。十一月には、佐々木知子氏による憲法についての講演を予定しております。また、係では、皆様の興味ある講演会や見学会を実現したいと思っておりますので、ご希望をお知らせください。

○サークル係

(藤谷・藤枝)

サークル紹介をご覧ください。また、憲法施行五十周年にちなんで、憲法を読むサークル等を企画中です。詳細は決まり次第お知らせします。

○ともしび係

(坂上)

皆様の声の反映する紙面作りを心がけています。紙面に関する注文や感想等をお寄せいただけると幸いです。

す。紙上討論の投稿もお願いします。

○バザー係

(小坂)

年三回程度ですが、皆様のご協力を得て、活動しております。また、常時事務所に保存食品を置いております。委員のいない時は、事務員の鈴木さんにお金を託してお買いください。

サークル紹介

○東京漫歩くらぶ

問い合わせ先・峯川正子(電〇三—三六八四—八三〇七)

○英語講座

日時・毎月第一第三金曜日
午前十時—十二時

場所・大久保地域センター集会所
講師・松本節也(元法政大学教授)

テキスト・STORES BEHIND
WORDS(タクミラン・ランゲージハウス発行)

会員募集中
問い合わせ先・峯川正子(電〇三—三六八四—八三〇七)

日時・毎月第二火曜日
午後一時半—三時半

○読書会

場所・事務所
テキスト・曾根崎心中(近松門左衛門)

代表・岩野 鈴

問い合わせ先・山田理子(電〇三—三四〇二—一三三三)

○楽しい俳句会

日時・毎月第三水曜日
午後一時半—三時半

場所・実践女子学園校同窓会館四階
講師・柴崎富子

会員募集中
問い合わせ先・海老原典子(電〇三—一三三五—一五〇五六)

わたしの一語を、ご覧ください。

○源氏物語を読む会

日時・毎月第三第四水曜日
午前十時—十二時半

講師・坂上栄美子
テキスト・若紫の巻

場所・実践女子学園校同窓会館四階
会員募集中(一名)

問い合わせ先・平田宏子(電〇四七—一四三三—一五七三)

サークル「楽しい俳句会」
わたしの一句

留学生と言葉遊びや松の内
人ごみに亡夫の背を見し初詣

柴田和子
太刀川洋子

新らしき年立てりまず日記書く
比留間淑乃

ザ・タイムス数く碧眼の花見かな
海老原典子

踏み惑ふ径一面の落椿
尾上夏子

足音に寄りくる鯉や風光る
加藤恭子

たましひの遠出してある男難かな
講師 柴崎富子

手に馴れし雛飾る日やルビー婚
関口瑞穂

中空に彗星の在り花明り
時枝玲子

渾身の花了へし樹に慈雨つづく
平田宏子

幼子の寝顔照らしぬ螢かこ
小池朋子

沖昏れていさき七尾の釣果かな
坂上栄美子

穂芒のタクトに風の舞ひやまず
藤枝史子

山あひの一すぢの赤ななかもど
藤谷文子

亡母よりも亡姑の手順や年用意
羽山昭子

(季語別・アイウエオ順)

事業報告・予定

4月19日 東京支部総会

於国立教育会館

記念講演 ベアテ・シロ

タ・ゴードン氏

5月13日 視察船「新東京丸」で東

京港見学

7月1日 支部会報「ともしび」第

22号発行

7月2日 バスツアーわたらせ渓谷

鉄道方面(財務主催)

7月9日 講演「女性が働き続ける

ために」

講師 福島瑞穂氏

9月11日 龍波ガラス工場見学

10月18日 JAUWセミナー

19日 テーマ「女性と職業―そ

の障碍と支援について」

(本部主催)

於国立婦人教育会館

11月 講演 仮「憲法の話」

講師 佐々木知子氏

11月22日 観劇 新橋演舞場(財務

主催)

1月 新春のつどい(本部主催)

・7月以降の事業等は、決まり次第、

支部からの「お知らせ」で通知し

ます。

中間報告

全国セミナー研究発表に向けて

副支部長 藤枝史子

九七年度のセミナーは「女性と職業―その障碍と支援について」のテーマで、十月十八日十九日の両日、埼玉県嵐山町の国立婦人教育会館で開催されることが決定しました。

東京支部も研究発表をすることに、研究会を四月末に発足させました。前号の「ともしび」の呼びかけで五名の方の参加申込みがあり、支部委員全員と力を合わせて、研究に取り組んでいます。数回の話し合いの結果、研究テーマも「女性が働き続けるために―企業の育児支援と国の対策―」に決まりました。

少子、高齢化が進む中で、女性が充実した職業生活を送るには、どのような問題があり、それを解決するにはどのような環境の整備が必要か、また現状はどうか等を、国(総理府・文部省・厚生省・労働省)や企業等へ出向き、実態を聞き取り調査してまとめる予定です。

私達にとって大変身近な問題ですので、体験や情報等をお持ちの方は、ぜひご協力をお願いいたします。

お知らせ

「国際大学婦人連盟第二十五回国際会議報告書」、及び「JAUW一九九六年セミナー、ディンジョン・メイキングへの女性の参画」の報告書の欲しい方は、事務所まで申し込んでください。送料は会の負担でお送りします。

お願い

使用済みの切手、テレカを事務所までお送りください。年末に福祉施設に寄付します。

紙上討論原稿募集

三月一日発行の「ともしび」第23号の紙上討論の原稿を、次の要領で募集します。ご自分の体験やご意見をお寄せください。テーマ「家事労働(育児・介護を含む)をあなたはどうか評価しますか」

四〇〇字程度 十二月十五日締め切り 匿名可
送り先 〒206 多摩市桜ヶ丘二
一八八―十一 坂上栄美子
FAX 〇四二二―七一九〇九一

はじめまして

「今年度からの新委員です。どうぞよろしく」

奥村さんの後任としてお仲間入りさせていただくことになりました。ご指導のもと学びの一つにと願いつつ。

木村和子(実)

編集後記

最近、子供に関する痛ましい事件が多く、心がふさぐ。外もうつとつしい梅雨空だが、庭の紫陽花は日毎に藍の色を増し、梅も小さな実をしつかりとつけ、葉陰からのぞかせている。「ともしび」が出来上がる頃には、すべてに、明るい夏が訪れる事を念じて……。(S)

四月十九日記念講演者ベアテさん人気で、思いもかけず満員御礼の支部総会も無事終え、ほっと一息も束の間、もう「ともしび」二十二号の校了である。紙上討論を企画して二回目となり、一般会員からの投稿も順調でうれしい悲鳴である。頭の中一杯につまっている知識を、ぜひ「ともしび」に発表してみても如何でしょう！ (F)

